

サステナ経営検定3級第18回解答解説

[2024年4月21日実施] サステナ経営検定委員会

問題1 「サステナ経営の目的と領域」に関する次の記述のうち、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：イ

2：CSRとSDGsは同じ意味ではなく、ESGもこれらを統合して誕生したものではない。(11ページ) 3：サステナ経営でも法令順守は求められる。(11ページ)

公式テキスト：Chapter 1.1 サステナ経営の目的と領域

問題2 「SDGsとサステナ経営」に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：イ

公式テキスト：Chapter 1.2 SDGsとサステナ経営

問題3 「世界のCSRをめぐる動き」に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：Chapter 1.3 世界のCSRをめぐる動き

Chapter 2.2 社会における企業の役割

問題4 「大企業と中小企業のCSR」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

社会と企業の特徴によって取り組み内容が異なるので、ほかの企業をただ真似ても効果は出ない。(16ページ)

公式テキスト：Chapter 1.4 大企業と中小企業のCSR

問題5 社員が「コンプライアンス」について意見交換をしている。適切な発言をしている社員の組み合わせを一つ選べ。

正答：エ

社員A：現場の業務運営面におけるコンプライアンス違反による不祥事もある。(20ページ) 社員C：ソフトローも社会規範に含まれる。(21ページ)

公式テキスト：Chapter 1.5 コンプライアンスの本質

問題6 「サステナビリティ報告書」に関する次の記述のうち、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ウ

2：報告の基準となっているのは、国際 NGO「GRI（グローバル・レポート・イニシアティブ）」による「GRI スタンダード」である。（22 ページ）4：企業を外部から正しく評価するために、場合によっては都合の悪い情報も開示する必要がある。（22 ページ）

公式テキスト：Chapter 1.6 サステナ報告書の役割と現状

問題 7 「ISO26000」に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：エ

公式テキスト：Chapter 1.7 ISO26000 とは何か

問題 8 「国連グローバル・コンパクト（UNGC）」に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：Chapter 1.8 国連グローバル・コンパクト

問題 9 「ESG 投資／サステナブル投資」に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：Chapter 1.9 ESG 投資／サステナブル投資

問題 10 「地方自治体の SDGs 政策」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

密接にかかわっている。（31 ページ）

公式テキスト：Chapter 1.10 地方自治体の SDGs 政策

問題 11 「企業と社会の関係性」に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

ア：企業は社会に有益な価値を提供し、その見返りに利益と信頼を獲得し、社会的存在を許されるという意味である。（34 ページ）イ：公害などの問題によって問われるようになったのは、企業の社会的責任論である。（34, 35 ページ）エ：「企業行動憲章」は会員企業に対し、社会的責任を認識して社会課題の解決へ貢献することを働き掛けた。（35 ページ）

公式テキスト：Chapter 2.1 企業と社会の関係性

問題 12 「社会における企業の役割」に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：Chapter 2.2 社会における企業の役割

問題 13 「ステークホルダー」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

重要事項を特定する際においても、ステークホルダーの声は聴く必要がある。(38ページ)

公式テキスト：Chapter 2.3 ステークホルダーとは何か

問題 14 「企業に求められる対話力」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

アンテナを高く張るのは環境変化に対してであり、感受性を磨いて社会からの要請や期待を正確に捉えることが必要なので、狭義のコンプライアンスに対してのみ気にすれば良いとはいえない。(41 ページ)

公式テキスト：Chapter 2.4 企業に求められる対話力

問題 15 国際消費者機構 (CI) が提唱する「消費者の5つの責務」に該当するものを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：Chapter 2.5 消費者重視経営とは何か

問題 16 「トリプルボトムライン (TBL)」に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：Chapter 2.6 トリプルボトムラインとは

問題 17 「社会課題と SDGs」に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：Chapter 2.7 社会課題と SDGs

問題 18 「企業の社会貢献と寄付」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

ボランティアは社会貢献的な活動なので、直接的に企業の利益を上げることができるとはいえない。しかし、ボランティアに参加することは、従業員の意欲向上や人材育成などにつながり、間接的には利益

に貢献するといえる。(53 ページ)

公式テキスト：Chapter 1.1 サステナ経営の目的と領域

Chapter 2.8 企業の社会貢献と寄付

問題 19 「人権」に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：Chapter 2.9 ビジネスと人権

問題 20 日本の「社会とつながる働き方」に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

正答：ア

イ：コロナ禍以前は在宅ワークなどの導入に消極的だった。(59 ページ) ウ：社会との接点の「多面性」も大きくなる。(59 ページ) エ：「コアタイム制」ではなく「フレックスタイム制」。(58 ページ)

公式テキスト：Chapter 3.1 社会とつながる働き方

問題 21 日本の「NGO/NPO とは」に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

正答：エ

ア：地域社会の課題に取り組む生活密着型の活動を行う団体の割合が高くなっている。(63 ページ) イ：画一的な施策だけでは解決できなくなり、地方分権をはじめとする新たな施策を積極的に進めている。

(62 ページ) ウ：NPO の施行当初は、法人格を付与することに重きが置かれていた。(62 ページ)

公式テキスト：Chapter 3.2 NGO/NPO とは

問題 22 日本の「企業と NPO の協働」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

相容れないと思われてきたが、協働することによって課題解決や社会の発展に寄与できることが分かってきた。(64 ページ)

公式テキスト：Chapter 3.3 企業と NPO が協働する意義

問題 23 「ダイバーシティなど DEI」に関する次の図の中にある空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：Chapter 3.4 ダイバーシティなど DEI

問題 24 「ダイバーシティなど DEI」に関する次の記述のうち、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

2：日本は146カ国中125位だった。(67ページ) 3：雇用確保(義務)は65歳までで、70歳までは就業確保措置を取ることが努力義務となっている。(67ページ)

公式テキスト：Chapter 3.4 ダイバーシティなど DEI

問題 25 日本の「ワーク・ライフ・バランス (WLB)」に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

ア：「子育てサポート企業」として受けることができる認定は「くるみんマーク」である。(68ページ)

イ：社員にも企業にもメリットがある。(69ページ) エ：WLBを推進すれば、労働時間に制約はあるが、優秀な人材には退職せずに働き続けてもらうことができる。(69ページ)

公式テキスト：Chapter 3.5 ワーク・ライフ・バランス

問題 26 「SDGs と消費行動」に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

正答：イ

ア：平和で争いのない世界も含まれる。(72ページ) ウ：個人の消費行動には世界を変える力があるので、これからの消費者は、保護されるだけの弱者ではなく、自らの消費行動に責任を持って行動することが重要である。(72ページ) エ：新学習指導要領の導入で、消費者の育成機会の広がり期待が持てる。(73ページ)

公式テキスト：Chapter 3.6 SDGs と消費行動

問題 27 「気候変動交渉の動き」に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

正答：エ

ア：期待される企業の役割の一つとして、投資がある。企業は、近年のGHG削減や適応策へのファイナンスを促進しようとする動きなど、国内外の動向を先読みし、利潤を生み出すことも考える必要がある。(77ページ) イ：米国が批准せず、新興国・開発途上国が削減義務を持たないなどの問題が残されたが、先進国の多くは批准している。(76ページ) ウ：各国が約束している現在の削減目標を達成しても1.5℃に抑えられないとして、各国に目標の引き上げを求める声が大きくなっている。(76ページ)

公式テキスト：Chapter 4.1 気候変動交渉の動き

問題 28 「生物多様性」に関する次の記述のうち、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

3：「社会資本」ではなく「自然資本」である。(79ページ) 4：金融危機ではなく気候危機が、生物多様性の危機と並ぶサステナビリティの二大課題となっている。(78ページ)

公式テキスト：Chapter 4.2 生物多様性

問題 29 「世界の貧困と児童労働」に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：Chapter 4.3 世界の貧困と児童労働

問題 30 「エシカルなビジネス」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

2021年に一般社団法人日本エシカル推進協議会（JEI）が、日本初のエシカルについての総合的な基準となる「JEI エシカル基準」を公表した。（83 ページ）

公式テキスト：Chapter 4.4 エシカルなビジネス

問題 31 「フェアトレード」に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

正答：エ

ア：手工芸品から始まった（84 ページ）イ：先進国ではなく、開発途上国側から提案されたスローガンである。（84 ページ）ウ：世界貿易機関ではなく、国際フェアトレードラベル機構である。（85 ページ）

公式テキスト：Chapter 4.5 フェアトレード

問題 32 「オーガニック／有機農業」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

定義には「遺伝子組換え技術を利用しないこと」とある。（86 ページ）

公式テキスト：Chapter 4.6 オーガニック／有機農業

問題 33 「自然エネルギーと RE100」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

SDGs の目標として定められているのは、自然エネルギーの割合の拡大である。（88 ページ）

公式テキスト：Chapter 4.7 自然エネルギーと RE100

問題 34 日本の「障がい者雇用」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

法定雇用率達成企業の割合は 48.3%。（90 ページ）

公式テキスト：Chapter 4.8 障がい者雇用

問題 35 「ソーシャルビジネス」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

担い手には、協同組合、NGO/NPO などの非営利団体も含まれる。(92 ページ)

公式テキスト：Chapter 4.9 ソーシャルビジネス

問題 36 「サーキュラーエコノミー」に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：イ

公式テキスト：Chapter 4.10 サーキュラーエコノミー

問題 37 「海洋プラスチックごみ問題」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ア

世界でも使い捨てプラスチックに関する規制は進んでいる。(97 ページ)

公式テキスト：Chapter 4.11 海洋プラスチックごみ問題

問題 38 「アニマルウェルフェア」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

「自然な行動をすることの自由」や「恐怖や苦痛からの自由」も含まれる。(98 ページ)

公式テキスト：Chapter 4.12 アニマルウェルフェア

問題 39 「LGBTQ」に関する次の記述のうち、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：エ

1：行政もさまざまな施策に取り組んでいて、同性パートナーを登録できる地方自治体も増えている。

(100 ページ) 2：アライとは同盟者を意味し、LGBTQ の問題に自分ごととして取り組む人を指す。(100 ページ)

公式テキスト：Chapter 4.13 LGBTQ

問題 40 「グリーンウォッシュ」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

グリーンウォッシュに当たる。日本では「生分解性」をうたっていたカトラリー類などの表示が「優良誤認」に当たるとして、消費者庁が措置命令を行った事例がある。(103 ページ)

公式テキスト：Chapter 4.14 グリーンウォッシュ